



ロータリーは機会の扉を開く

春日井ロータリークラブ

2020～2021年度 WEEKLY REPORT

クラブテーマ

「今・必要な良いことをしよう。みんなで」 奉仕目的と目標を明確にしよう。



会 長：和田 了司 例会日：金曜日 12:30～13:30
 副会長：川瀬 治通 例会場：ホテルプラザ勝川
 副会長：速水 敬志 事務局：春日井市鳥居松町5-45
 幹 事：朽本 正樹 TEL：(0568)81-8498
 FAX：(0568)82-0265
 E-mail：ksgi-rc@gaea.ocn.ne.jp



ニュートンの林檎の木

本日のプログラム

- | | |
|------------------|------------------|
| | 司会 会場委員会 |
| ・点鐘 | 会長 和田 了司君 |
| ・ROTARY SONG | 「奉仕の理想」 |
| ・今月の歌 | 「もみじ」 |
| ・ビジター紹介 | 会長 和田 了司君 |
| 20-21 年度地区大会幹事 | 鈴木 民也君 |
| 20-21 年度地区大会実行委員 | 渡辺 一朗君 |
| ・食事・歓談 | |
| ・委員会報告 | |
| ・地区大会PR | |
| ・祝福 | |
| ・卓話 | 長谷川智幸君
林田 健児君 |
| ・幹事報告 | 幹事 朽本 正樹君 |
| ・点鐘 | 会長 和田 了司君 |

今月の歌

「もみじ」
 秋の夕日に 照る山紅葉（もみじ）
 濃いも薄いも 数ある中に
 松をいろどる 楓（かえで）や 蔦（つた）は
 山のふもとの 裾模様（すそもよう）

今月の祝福

会員誕生日

- 15日 三上 努君
- 22日 下別府正樹君
- 25日 内藤 修久君
- 30日 速水 敬志君

結婚記念日

- 4日 三上 努君

2020年11月20日(金)2460回(11月第3例会)

- 11日 近藤 太門君
- 11日 小柳出和文君

夫人誕生日

- 1日 風岡 明憲君・久美子さん
- 3日 速水 敬志君・文子さん
- 8日 伊藤 正之君・君子さん
- 26日 社本 太郎君・富志さん
- 27日 西村 輝幸君・淳子さん

アテンダンス表彰

- 1ヶ年 村瀬 昌史君
- 7ヶ年 速水 敬志君

先週の記録

会長挨拶

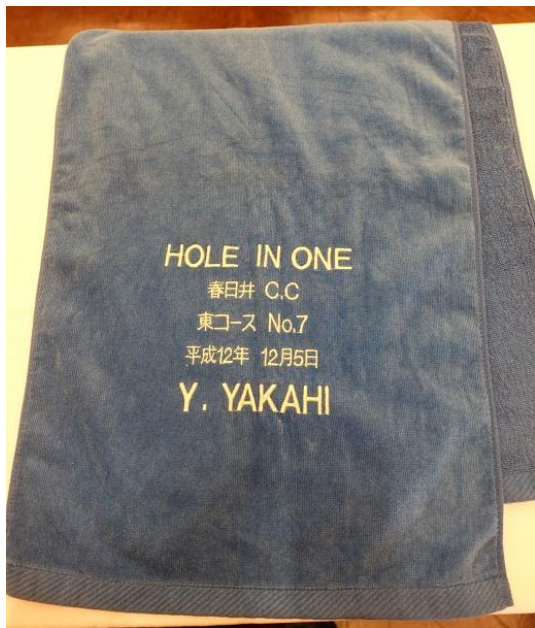
会長 和田 了司君

皆さん、こんにちは11月中旬ともなれば、秋も深まってまいりました。私の散歩道でありますロータリーの森を含むふれあい緑道も見頃になっていると期待しているところです。明日の散歩が楽しみです。人には様々な栄養が必要です。季節の変化を感じることも大事な栄養素です。話は変わりますが、毎年恒例のライラセミナーは今年度3月に豊橋で開催される予定であります。早速中部大学春日丘高校インターアクトクラブとガールスカウトに参加を打診しましたが、コロナ禍のなか今年度は参加を見合わせとのことでしたので、春日井ロータリークラブとしては参加者ゼロということとなりました。また先週の6日の例会はお酒と美味しい料理、何よりも嬉しいことは、Face To Face での親睦会となりました。コロナのない例年では当たり前のコトですが、それが如何にありがたいことかと再認識しまし

ロータリー財団月間

	11月27日(金)	12月4日(金)	12月11日(金)	12月18日(金)
例会予定	休会(祝日振替)	第6回理事役員会 11:15～ 年次総会	祝福 卓話 米山奨学生 顧 彬楠様	クリスマス家族会 18:00～受付 18:30～開始 ホテルプラザ勝川

た。長年二人で北アルプスを中心に登山を楽しんでいたのですが、「ゴルフもなかなか良いものだ。体力的にいつまでも登山はできないだろう、登山がきつくなった時のことを考え、ぼちぼちゴルフの練習でも始めるか・・・」でありました。



屋嘉比良夫君 記念タオル

60歳で危険な山岳スキーと、有雪期の登山を卒業し、65歳で登山や山岳写真とも距離を取ることとなりました。山岳スキーで私の目指した山は、富士山をはじめ、槍ヶ岳や剣岳など日本の代表する3000m級の山岳エリアで、スキー板を担ぎ、アイゼンとピッケルで登攀し、頂上からスキーで滑降するものであります。6月に発刊された卓話集に「還暦記念・槍ヶ岳大滑降」の記録を投稿いたしましたので興味のある方は読んでみてください。事業を現役の頃、大手取引先からは常々、「あの会社は代表取締役が極めてリスクなことをやっている。リスクマネージメントに問題がある」と言われ続けていましたが、事業を引退する頃になってようやくハイリスクな活動をやめたという、誠に身勝手極まりない社長であったと思います。当時、山岳スキーを読んだ句の一つを紹介します。

「山岳スキー 命削って生き延びて 振り返り見る夢のシュプール」

高齢者の山岳遭難は今も後を絶ちません。危険な山岳を卒業し、命を長らえ、元気に今を生きていられるのはゴルフのおかげと思って感謝しています。現在のオフィシャルハンディは18。年間のプレー回数は10回程度ですが、年を重ね、体力や飛距離の低下は避けようもありませんが、これから先、20年を目標に、妻と共に自宅から車で10分の所にあります名門春日井CCや、オールドレイクGCで、年齢相応に、安全なアウトドアスポーツであるゴルフをのんびり楽しみたいと思っています。

「人生に彩りを添える」

今年の新年祝賀例会において、「高砂」を披露させていただきました。昨年の秋には「小牧山の薪能」にも末席ながらも出演させていただきました。能楽は私の生活の一部として日常的に楽しむまでに至っています。能楽については私が貴田永克さんに、織田信長が好んで舞ったと言われる「人生50年、化天の内をくらぶれば、夢幻のごとくなり・・・」の幸若舞「敦盛」を舞ってみたいと思っていますと、つい口を滑らせたことから、能楽を勧められました。貴田さんから「良い先生がいるから」とプロの能楽師を紹介されましたが、師匠の名は「関根祥六」といい、日本を代表する観世流の重鎮でありました。このすばらしい師匠との出会いが、私を能楽に夢中にさせてくれました。極めてとっつきにくい世界ではありましたが、知れば知るほどに魅力の大きさを感じていきました。関根祥六師匠について少し触れたいと思います。重要無形文化財「能楽」の保持者、いわゆる人間国宝となられた方であります。師匠は現在の観世流家元の観世清和宗家を育てた、いわば能楽観世流のスタンダードと言うべき方で、すべての場面において卓越した才能と、人間味も豊かで、極めて明快な指導が大変魅力的でありました。お稽古には大変厳しく、私も真剣に向き合っていました。当時の私の様子を妻は「あなたをこれほど真剣にさせるとはネ・・・」と驚いていました。

関根祥六師匠は2017年（平成29年）87歳でお亡くなりになりましたが、関根祥六の直伝を受けたものとして、それを誇りとして、またそれに恥じない謡や仕舞にこれからも精進して行きたいと思っています。二人の息子の結婚式にはそれぞれに祝いの謡「高砂」を披露することができ、親冥利につける喜びを享受しました。現在は新型コロナウイルス感染予防のため活動は自粛していますが、4つの同好会に席を置き、それぞれに毎月、声を張り上げています。貴田さんには大変奥の深い世界にお誘いいただいたことに感謝しています。これからも研鑽を積んで行きたいと思っています。

「人生第2幕」

そして何と言っても私の人生にとって計り知れない素晴らしい助言を下されたのが清水勲さんであります。私がまもなく60歳の還暦を迎えようかという頃でしたが、5歳年上の清水さんが「私は65歳で経営を後継者である息子に譲り、退く。」「いつまでも第一線をあゆみ続けることはできない。」「引き際は自分で決めなければならない。」と経営譲渡の大切さとタイミングの大切さをお話し下さいました。この話を聞かせていただいた時、私は体力も気力もまだまだ充実していましたが、事業の後継者については考えるところがありました。私には昭和51年生まれと昭和53年生まれの二人の息子がいますが、当時すでに二人とも自分の目指す道を自分で見つけており、私の事業には関心を示さず、二人の息子には事業継承は託せないことを理解していました。まさに「目

からうろこ」でした。清水さんのアドバイスは漠然としていた自分の引き際について、明確な目標と言いましょか、具体的な計画を立てる決意をするに十分でした。幸いにして私の事業は極めて堅調で、豊かな内部留保によって無借金経営を続けていました。事業継承は大切であります。しかし、ただ単に手放せばよいというものではありません。「よし！私も65歳で引退しよう！」そう決心したものの、それほど単純ではありませんでした。取引先との信用維持、事業基盤の確保や、事業における社会的な役割もあり、健全な継承を果たしてこそ「引退」と言えるのではないかと考え、3年かけて継承者の教育、各事業の責任者の育成に多くの時間を掛け、無事に64歳6か月で待望の引退を果たすことができました。引退して初めて感じたことは、順風満帆の事業経営であり、一見、何の苦勞もしていなかったようでしたが、事業を行う事に凄まじいエネルギーが注がれていたこと。そして同時に凄まじい重圧を常に肩に担いでいた。と言う事です。引退後もしばらくは、長年の勤勉癖が身に沁みついており、昼間からのんびりくつろぐことには違和感を感じ続けていました。何か月かの時を経て、張りつめていた緊張感から徐々に解放され、自分を取り戻し、ようやく引退の実感を得ることになりました。

「退職し わはは、わははと過ごしけり時の自由と、肩の軽さよ」

これはその当時の心境を詠ったものであります。体力も気力もまだまだとの思いもありましたが、このようなタイミングで、惜しまれて引退をすることこそ「花道」であった。良き引き際であったと今も思っています。

「生涯の夢」

なぜ引退するのか？私には一つの夢があります。その夢を実現するために事業を引退しました。今年の5月の会長挨拶「感動の共有」の話の中で、私が一輪のバラに感動し、心を奪われたお話をさせていただきましたが、私は生涯の夢として一品種でも二品種でもいいから、人の心を虜にするような、あるいは後世にまで語り継がれるようなバラをこの手で作出したいと思っています。バラとの出会いから40年経った今もこの夢を抱き続けています。この夢の実現には「時間」と、「広大な農場」が必要であります。本業の片手間で、あるいは住いの庭先で実現するほど安易なものではありません。いつかじっくりと打込みたいと思いつけていました。「時間」は事業を引退することで確保できました。「広大な農場」の確保が問題でありましたが、幸いにして30年に及ぶ春日井市植物園でのバラ展開催や園芸講習会などの、バラに関する奉仕事業を通じて培った人間関係から、春日井市の農業委員会の方や、農政課の後押しをいただき、玉野地区に約三反、900坪弱の生産農地の取得が許されました。農地の取得に先立ち、加藤久仁明さんに土地の吟味を相談しました。取得後には土の入れ替えや土止め工事などもお願いしました。播

種育苗用にガラス温室を建てましたが、農場には電気が通っていなかったため、当時の春日井RCのメンバーであった中部電力の小野寺誠さんに相談いたしました。小野寺さんは「わかりました。」とのひとことで、かなり離れた場所から電柱を8本立て、大きなトランスを揚げ、私の農場の温室に電気を引いて下さいました。トーエネックさんも紹介して頂き、電気工事一切をお願いしました。現在自宅バラ園には160株、農場には250株ほどのバラを育てています。バラとバラを交配し、新しい品種を創り出すことを「育種」と言います。バラは多産系の植物で、交配により比較的容易に結実します。春の開花時に交配により結実した実から秋に種を取り出し、冬に蒔き、春にバージンフラワーを咲かせます。毎年何百という種を蒔いていますが、未だ私の目標とするような新花にはたどり着けていません。この先20年かけて、宝くじのような確率の「夢の挑戦」を続けていくつもりです。広大な農場には桃やブドウ。ミカンや柿などの果樹が50株、トラクターなどのパワーツールも駆使して管理しています。イノシシやカラスとの知恵比べ、根比べをやっています。また夏はスイカやトウモロコシ、冬は白菜や大根など多くの野菜作りも楽しんでいきます。さまざまな園芸植物と接していると時の経つのも忘れます。妻と二人の、終（つい）の遊び場として、天気が良ければ毎日早朝より二人で農場へ通い、晴耕雨読の日々を送っています。「日が照れば土と戯れ 雨降れば 謡詠ずる晴耕雨読」

これは最近の心境を詠ったものであります。現在、公職として、公益財団法人日本ばら会の全国ローズコンテスト審査員、岐阜県花フェスタ記念公園の国際ローズコンテスト審査委員長、公益社団法人愛知県スキー連盟の規約等審議委員会委員をお引き受けしていますが、好きなこと、培ったことで社会に貢献できることは最高の喜びと言えます。この先の人生も有意義に、そして、豊かに送りたいものであります。拙い卓話になりましたが、最後までご静聴ありがとうございました。



会長挨拶 和田 了司君



入会挨拶 岩村 幸正君



岩村 幸正君入会式



ロータリー情報委員長挨拶 社本 太郎君



新入会員紹介 芝田 貴之君



卓話 北 健司君



幹事報告 朽本 正樹君



緑の散歩道プロジェクト



春日井市菊花大会

今週の MENU

牛蒡のポタージュ

カジキマグロのカルパッチョ、
プロシュートハム、
ポークパテの盛り合わせ

サラダ

鶏もも肉の葱味噌焼き

ごはん

デザート
コーヒー